

マウスをいざ説明するとなると手に余るので、ネットで用語辞典のようなものを検索すると、次のようである。

パソコンで最も利用されているポインティング・デバイス。手のひらに収まる機器をテーブル上で前後左右に動かすと、その方向に画面のポインタが動く。動きの検知には前は底面にボールが入っていたが、今は底面の光センサーを使うものが主流。かたちがマウス(ネズミ)に似ている。(少し圧縮してある)

コトバンクが、てもともにもある「パソコンで困ったときに開く本」(朝日新聞出版)を参照したもので、この説明でも、あと二つ(ポインティング・デバイス、ポインタ)は説明が要る。てもとの版は大判の雑誌サイズで厚さも二センチ近くある。困ったことがそれだけ多いということでもある。

「困った」事例(目次)も九ページにおよび、「警告メッセージで困った」から、「とにかく困った」まで十四項目にグループ化されている。

ときによっては作業が止まってしまうので、パソコンがこの世に登場する前から生きて生活している者には、こういう本も必要で、またあることがビジネスにもなっている。

会社では、同僚に聞くこともできるが、その同僚も十人はいなければならぬ。今はネットワーク環境でもあるので、不具合もいろいろで、原因の切り分けからかんがえなければならぬ。基本ソフトや周辺ソフトもバージョンアップされるので、それぞれに対応も違ってくる。

ということ、いきなりではなかったが、マウスの動きが悪くなった。ポインタが思うところにかかず、つまずいたり、あらぬところにいつてしまう。これはストレスで、もうパソコンでの作業を放り出したくなった。

無線マウスだったので、とりあえず電池を交換してみた。ちょっといいようだったが、すぐに同じだということがわかった。

会社であれば、べつなパソコンでためしてもらうこともできただろう。

有線マウスもとに一つ残してあったので、それに交換することもできたが、パソコンが新しいので、認識してくれるかどうか。面倒はないか。

ネットで「困った」を検索すると、アンサーがいろいろ返ってくる。よいアンサーを競うような仕組みもある。この場合、使用環境がまったく同じということはないので、場合分けが必要になる。対応も簡単なものから面倒なものまである。大抵面倒なものを考えてしまう。

ところで、何かひよつとしたことを思いつくことがある。

この場合、マウスパッドのかすかなよごれに目がとまった。

こまかい、粒子のような汚れが点々とこびりついている、それを爪の先でひとつひとつこそげ落とすようにして落とした。

これが正解だった。こんなことというようなことだが、これだった。

ストレスなくうごくようになった。

「清紫会」だより

◆第158回 平成二十九年八月十七日(木)、会場・文京シビックセンター三階B会議室

〈提出作品〉林博子・入院日記

◆第159回 九月二十一日(木)、会場・文京シビックセンター三階A会議室

〈提出作品〉市川茂子・敬老の日／林博子・母のこと／丸山弘子・不注意

◆第160回 十月十九日(木)、会場・文京シビックセンター三階A会議室

〈提出作品〉小野澤繁雄・マウス／林博子・宇都宮と言う街／松井淑子・衣替え